

「クロアゲハ幼虫騒動(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

アゲハは、3年生の昆虫の成長の学習で、非常に教材性の高い対象である。本校の周辺でよく見られるアゲハは、アゲハ(ナミアゲハ)、アオスジアゲハ、クロアゲハなどである。成虫の姿はかなり異なっているが、幼虫はよく似ていて、いずれもミカン科樹木の葉を食べて成長する。



3年生の教室で飼っているアゲハの幼虫は、ほとんどが卵から育てたものだ。今は黒い幼虫が多いが、その中に、ひととき大きな黒幼虫が混ざっていた。



ナミアゲハの幼虫なら4齢ぐらいの大きさなのに、まだ黒いままでいる。子どもたちも、この不思議な巨大黒幼虫の存在に気づき、「何だコイツは!」「いつ脱皮するんだ?」と、あーだこーだ論議していた。



何日かして脱皮し、やっと正体がわかった。これは**クロアゲハ *Papilio protenor***の幼虫だった。ナミアゲハの幼虫よりも腹面の色が濃く、斜めの模様もはっきりしている。光線の具合によっては模様が金色にも見え、ゴージャスな雰囲気を持っている。眼状紋も立体的で、まるで瞳を持った本物の眼球のように見える。



サイズも圧倒的に大きい。写真はナミアゲハの幼虫(下)との比較である。いずれも終齢幼虫だが、これだけ大きさがちがう。数日後、このクロアゲハの幼虫は、3年教室に大騒動を起こすことになる。